

財務省 財務総合政策研究所  
**ASEANワークショップ**

**ASEAN金融部門のデジタル化  
—進むQRコード決済、域内接続—**

2025年3月14日

日本貿易振興機構アジア経済研究所 濱田美紀

# 本日の内容

## 1. ASEAN金融部門

## 2. 金融部門のデジタル化

2.1. 金融部門のデジタル化ーインドネシアの事例

2.2. QRコード決済の現状ーインドネシアの事例

## 3. デジタル化によって進む金融統合

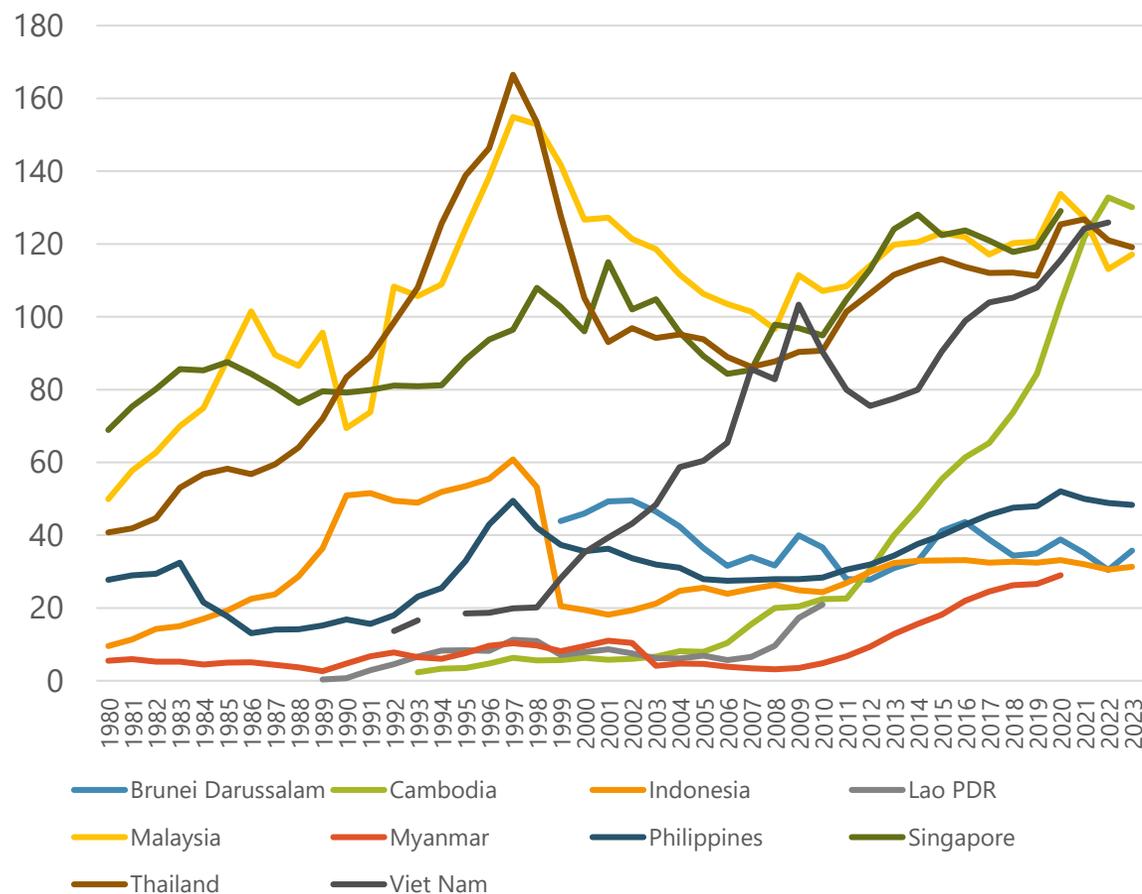
3.1. ASEAN域内資本移動の拡大

3.2. 即時決済システムの導入と統一QRコードの導入

3.3. 越境QRコード接続

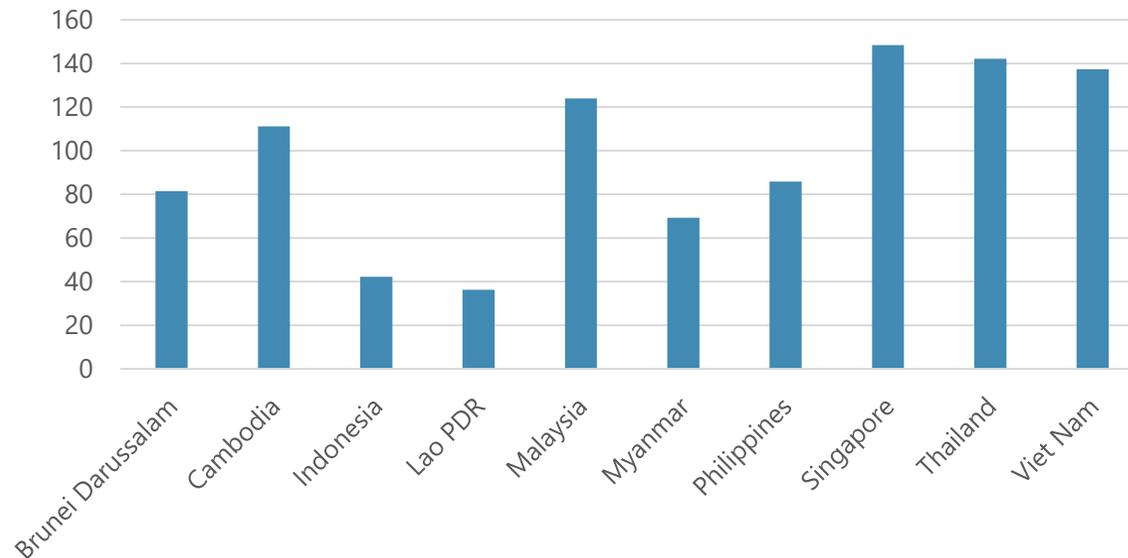
# 1. ASEANの金融部門

民間部門向け銀行貸出対GDP比率 (%)

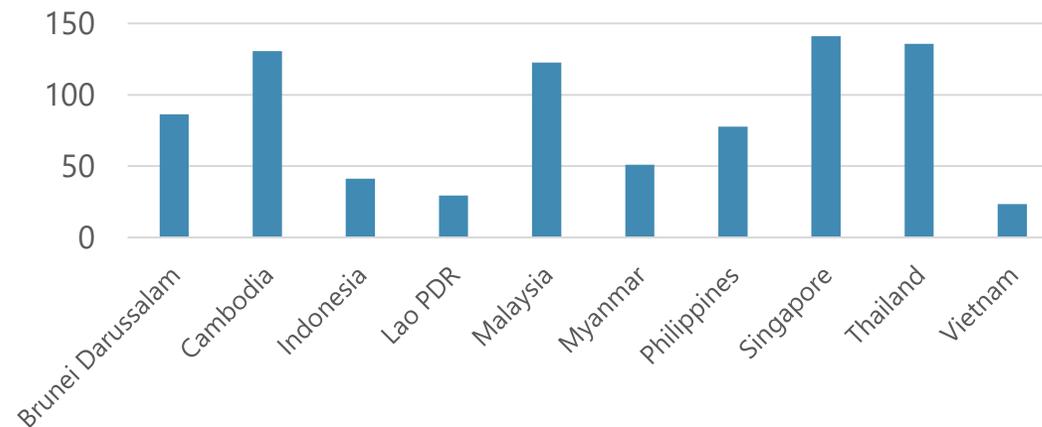


(出所) World bank, World Development Indicators.

広義マネーサプライ対GDP比率 (2023)



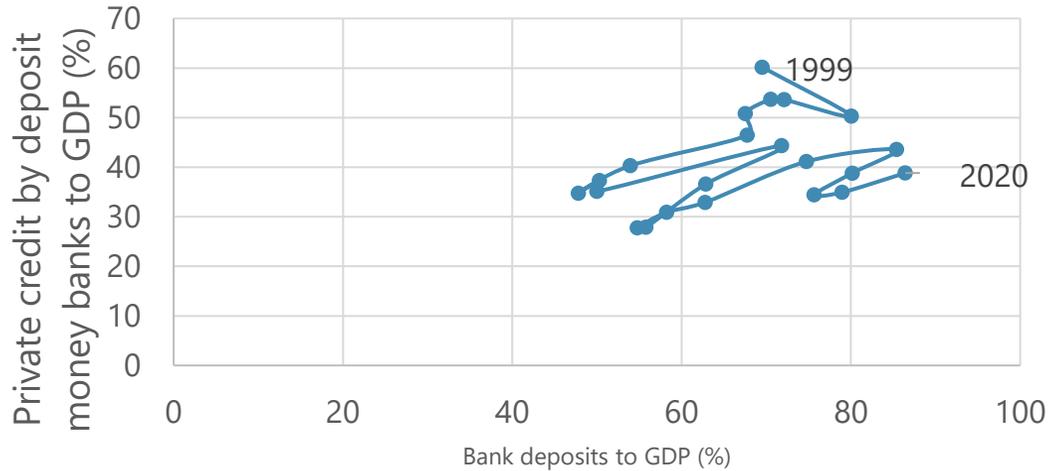
銀行預金対GDP比率 (2021) (%)



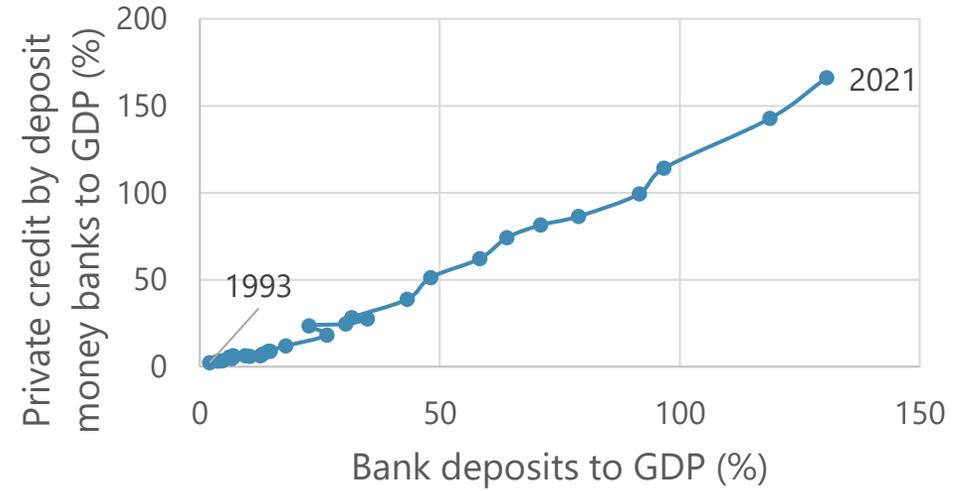
(出所) World Bank, Global Financial Development.

# 1. ASEANの金融部門—金融深化

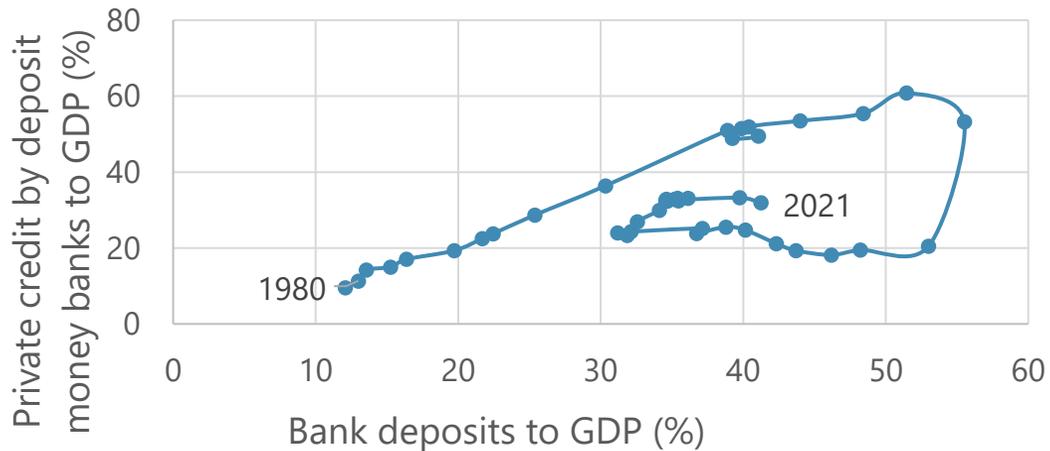
Brunei Darussalam



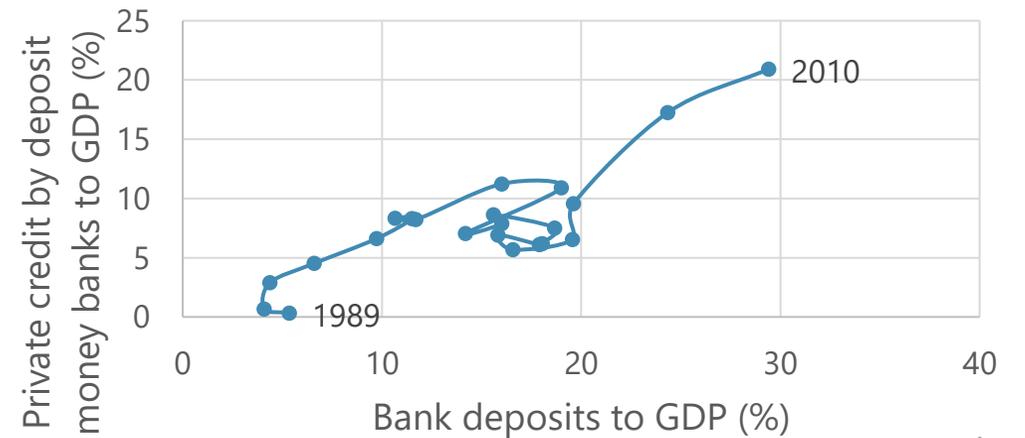
Cambodia



Indonesia



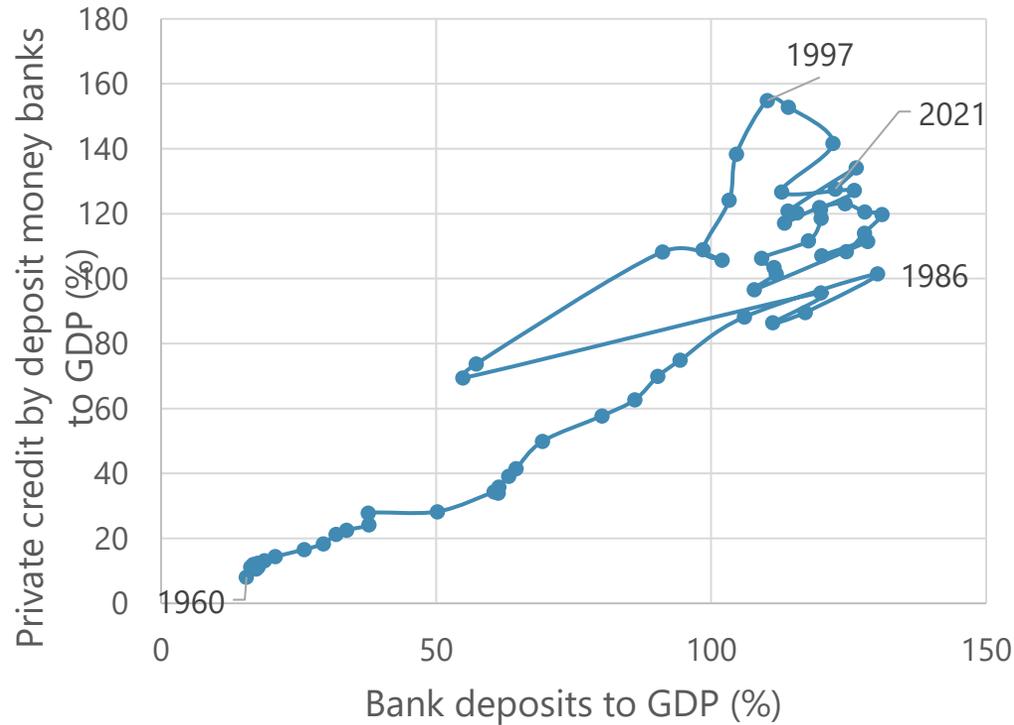
Lao



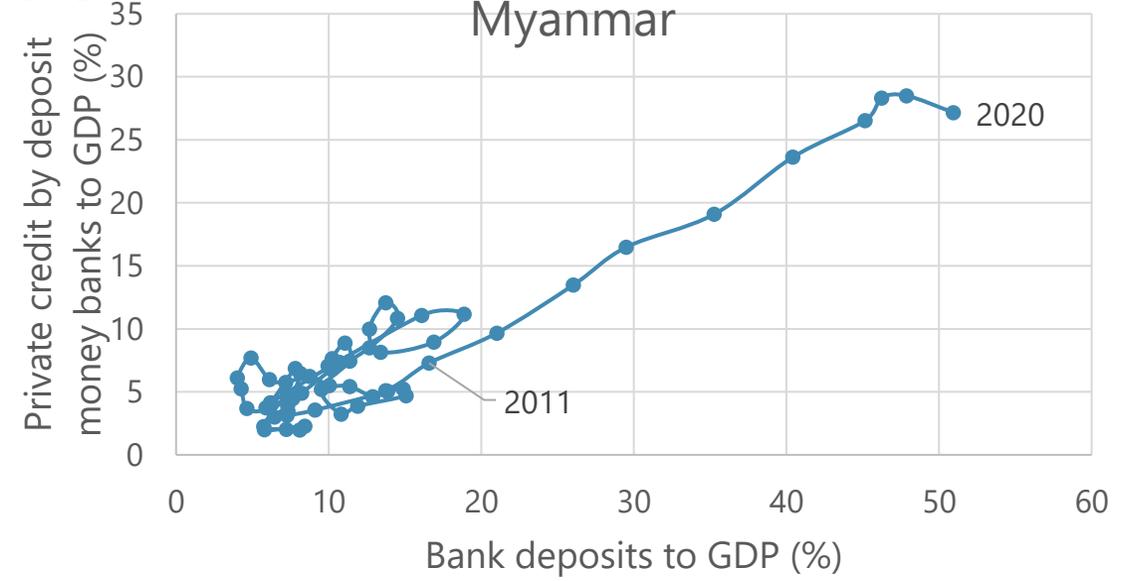
(出所) World bank, World Development Indicators.

# 1. ASEANの金融部門—金融深化

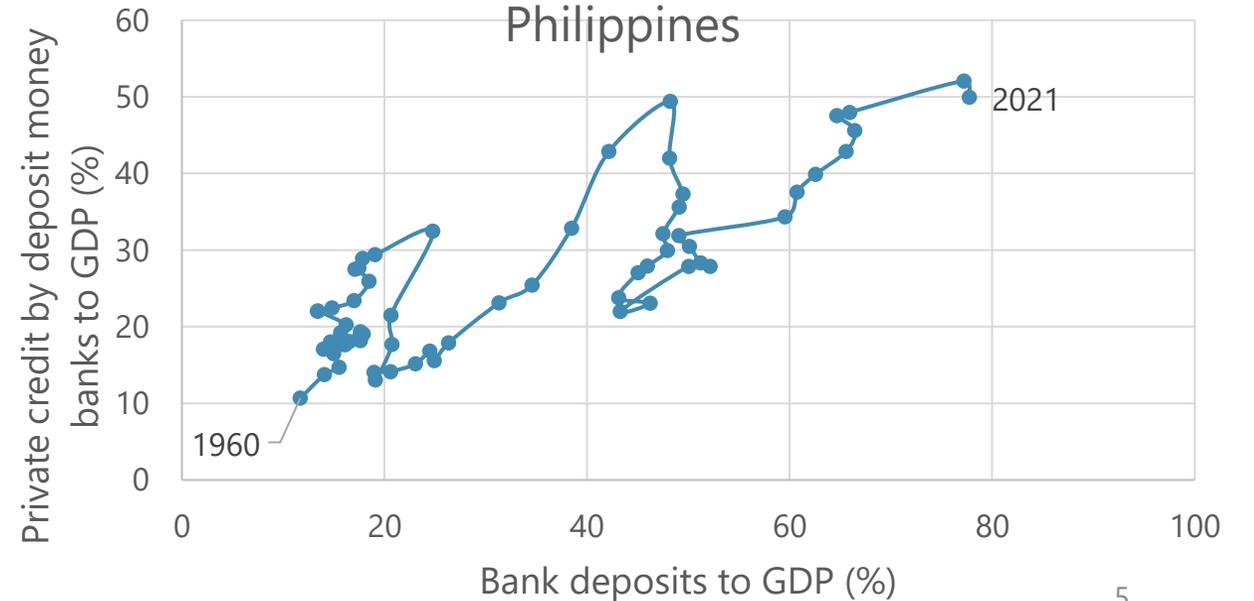
Malaysia



Myanmar

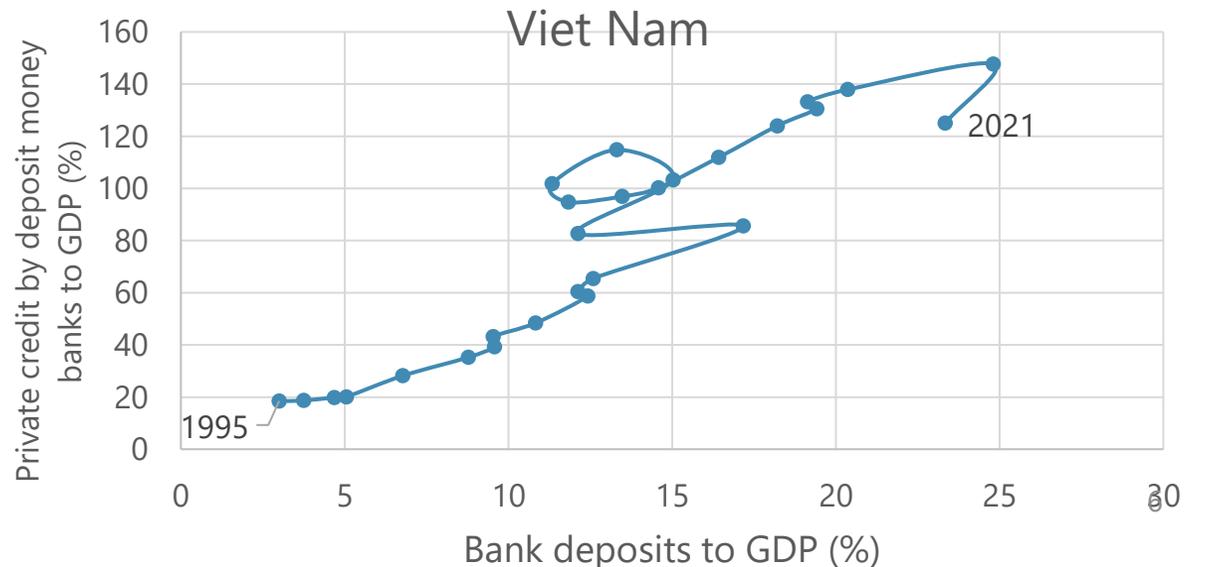
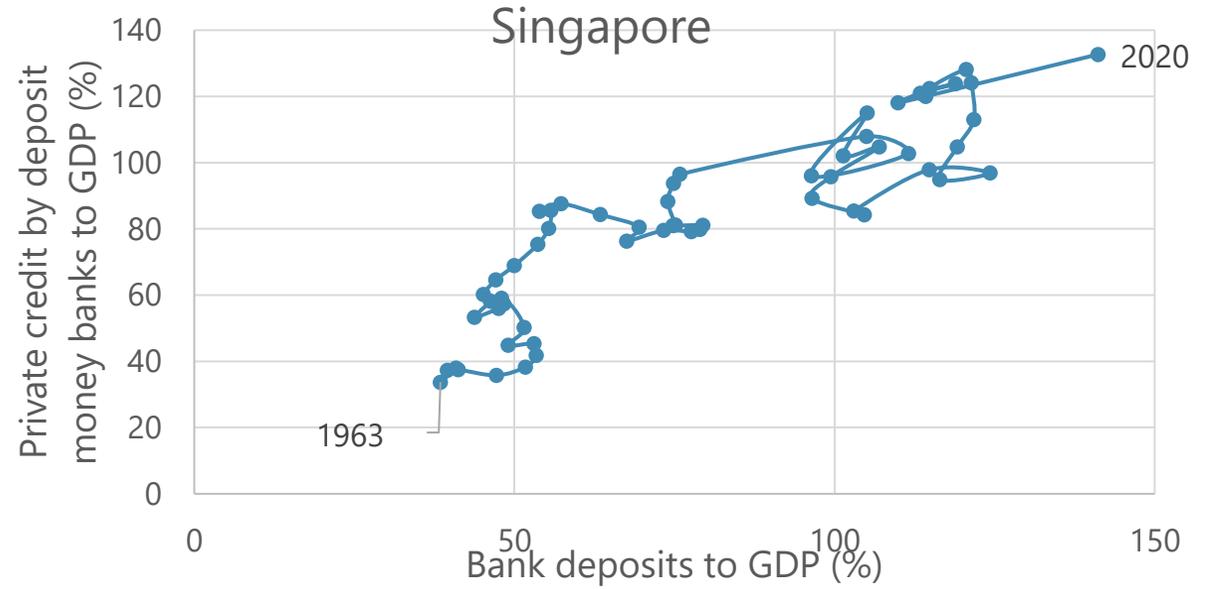
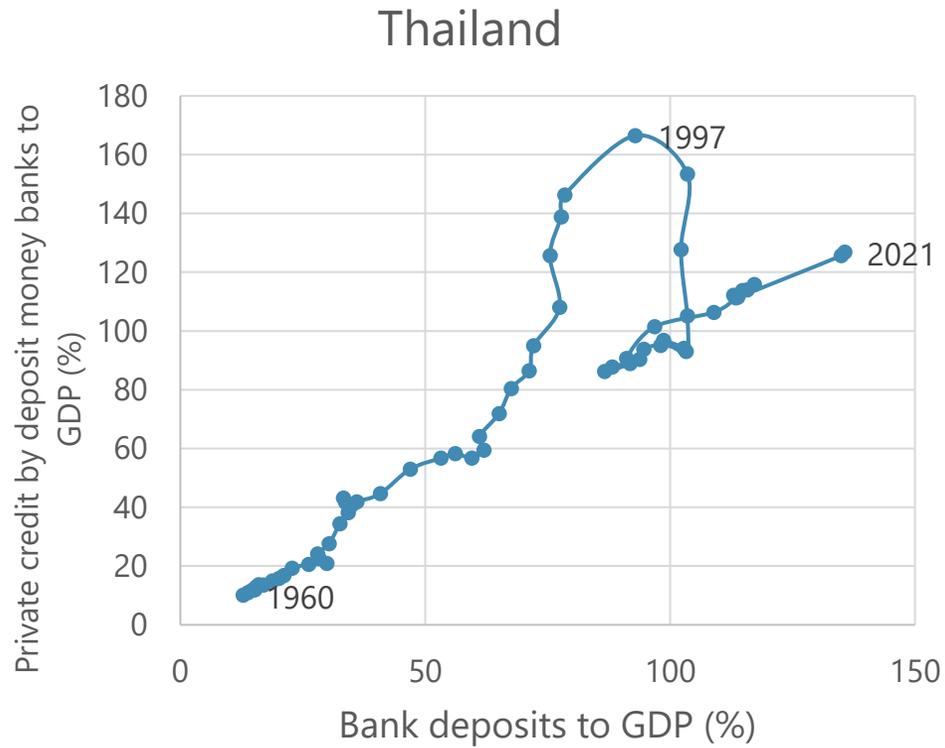


Philippines



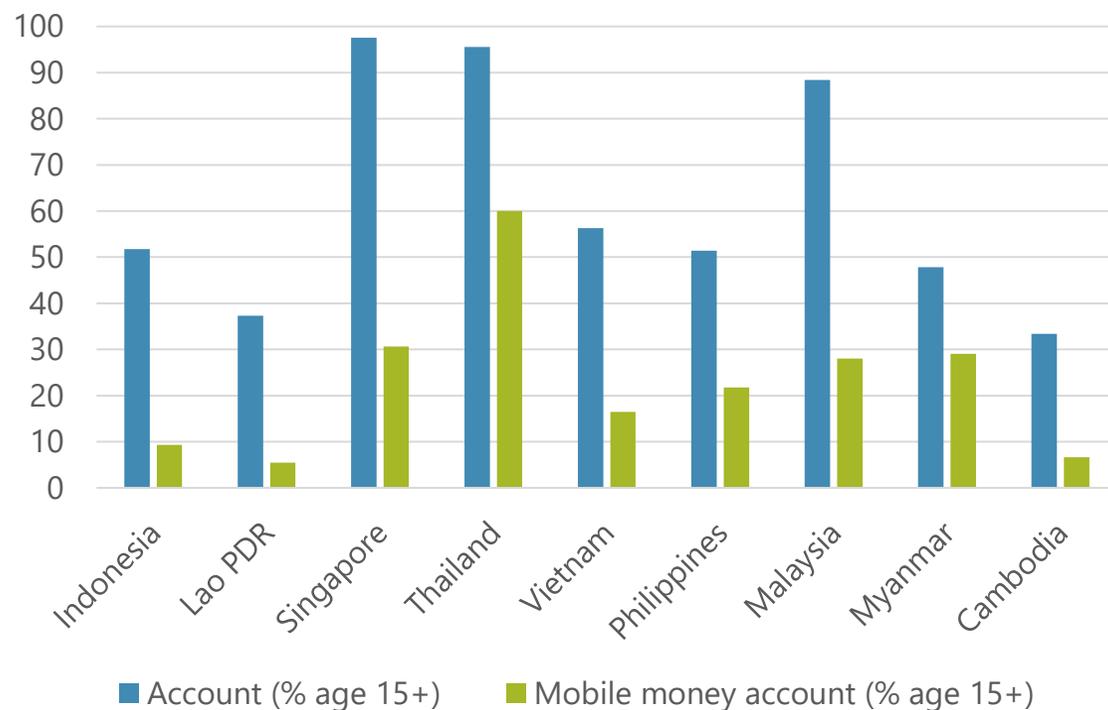
(出所) World bank, World Development Indicators.

# 1. ASEANの金融部門—金融深化

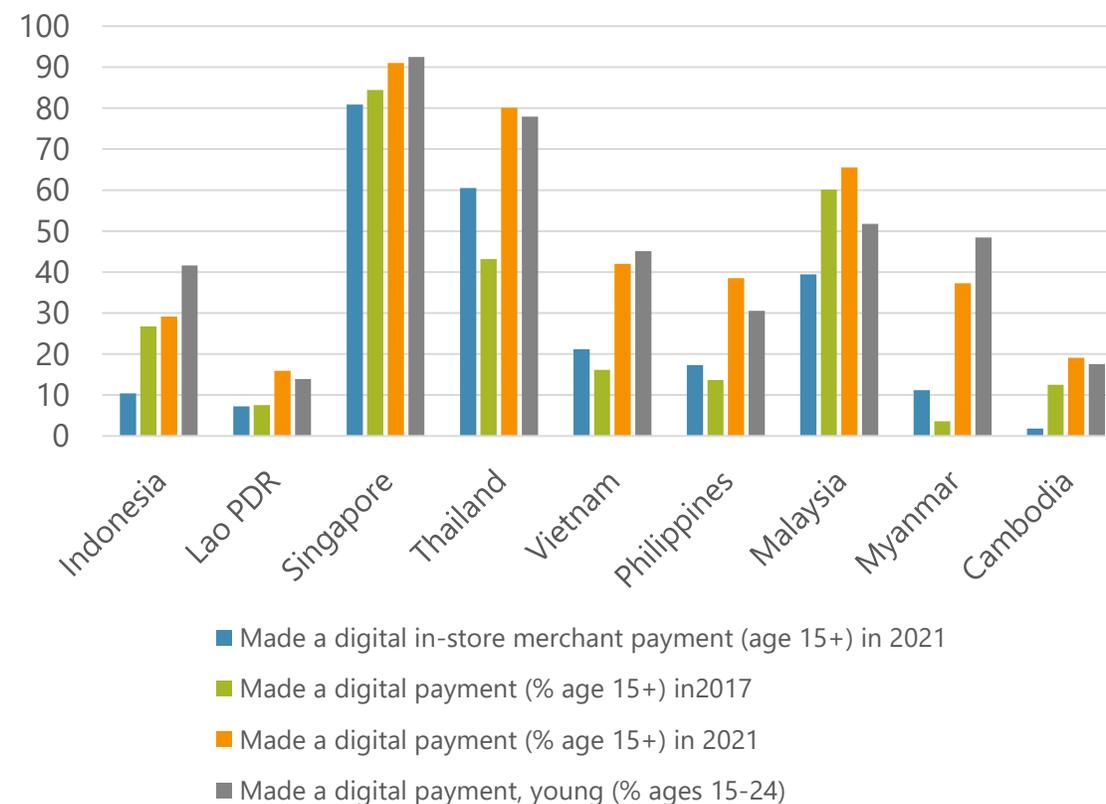


## 2. 金融部門のデジタル化

モバイルを含む銀行口座保有率 (%) (2021)



デジタル決済 (%)



## 2. 金融部門のデジタル化ー東南アジアでのキャッシュレスの進展ー

### ✓ COVID-19の影響

- ✓ キャッシュレス＝電子マネー・QRコード.
- ✓ 日本と違いクレジットカード保有者が少ない.
- ✓ 銀行口座保有者も少ない.
- ✓ 銀行口座に紐づかなくとも送金ができる手段.
- ✓ それまではデジタル金融へのアクセスは銀行口座を通じるしかなく、デジタル化の恩恵は金融包摂の拡大にはつなげていなかった.

### ●キャッシュレス利用状況

モバイルウォレット	79%
現金	77%
デビット/クレジットカード	70%
インターネットバンキング	70%

### ●QRコード決済利用状況

マレーシア	68%
インドネシア	66%
ベトナム	62%

### ●モバイルウォレット決済利用状況

東南アジア	79%
インドネシア	92%
マレーシア	87%
フィリピン	87%

### ●オンライン/アプリでモバイルウォレット利用

インドネシア	76%
マレーシア	63%
フィリピン	62%

### ●携帯番号/事業者IDでモバイルウォレット接続

フィリピン	53%
インドネシア	48%
ベトナム	35%

### ●現金利用頻度

コロナ後、以前に比べて現金を使わなくなった割合

東南アジア	56%
インドネシア	68%
タイ	66%
マレーシア	60%
ベトナム	56%
シンガポール	48%
フィリピン	48%
カンボジア	37%

### ●コロナを契機に初めて使ったキャッシュレス決済

モバイルウォレット	33%
クレジットカード（オンライン）	30%
クレジットカード（タッチ）	23%
QRコード決済	26%
カード（挿入/スライド）	19%

## 2.1. 金融部門のデジタル化ーインドネシアー

### 電子マネーの取引

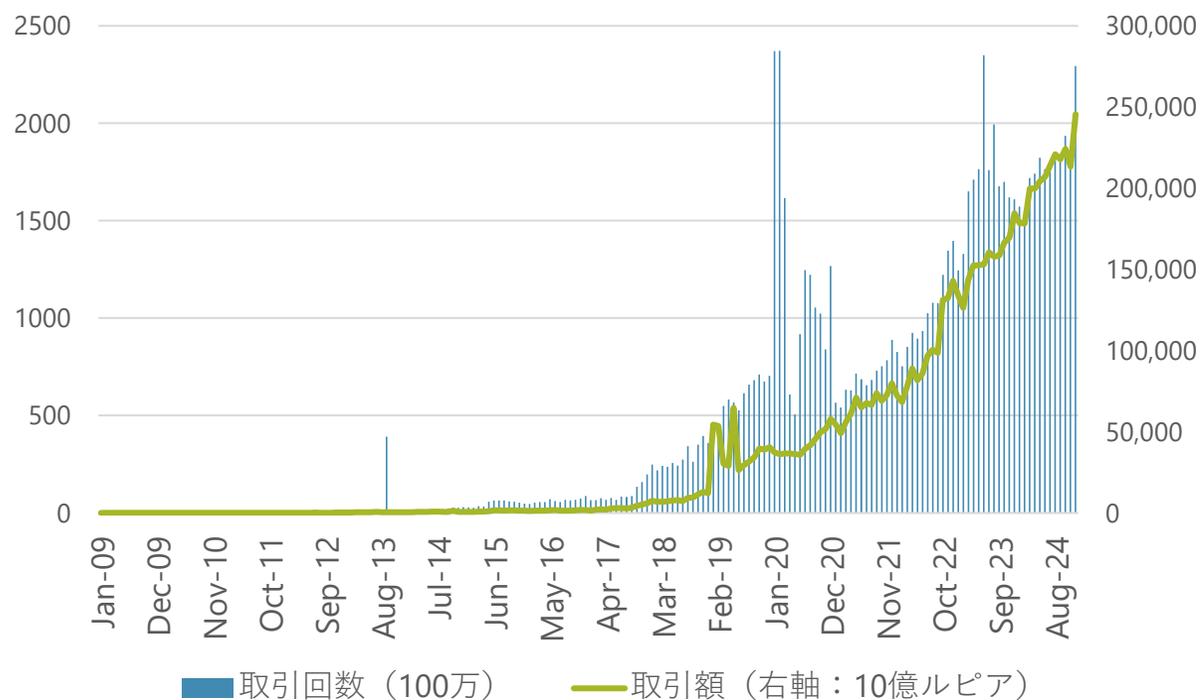


表3-2 インドネシアにおける金融口座の所有割合(15歳以上, %)(2021年)

	2011	2014	2017	2021
①金融機関口座のみ	-	35.6	45.7	42.5
②電子マネー口座のみ	-	0.1	0.5	1.3
③両方所有	-	0.3	2.7	8.0
④=①+③ 金融機関口座	19.6	36	48.4	50.5
⑤=②+③電子マネー口座	-	0.5	3.1	9.3
④+⑤=金融口座 合計	19.6	36.1	48.9	51.8

(出所) World Bank, The Global Findex Database.

# 2.1. 金融のデジタル化ーインドネシアー

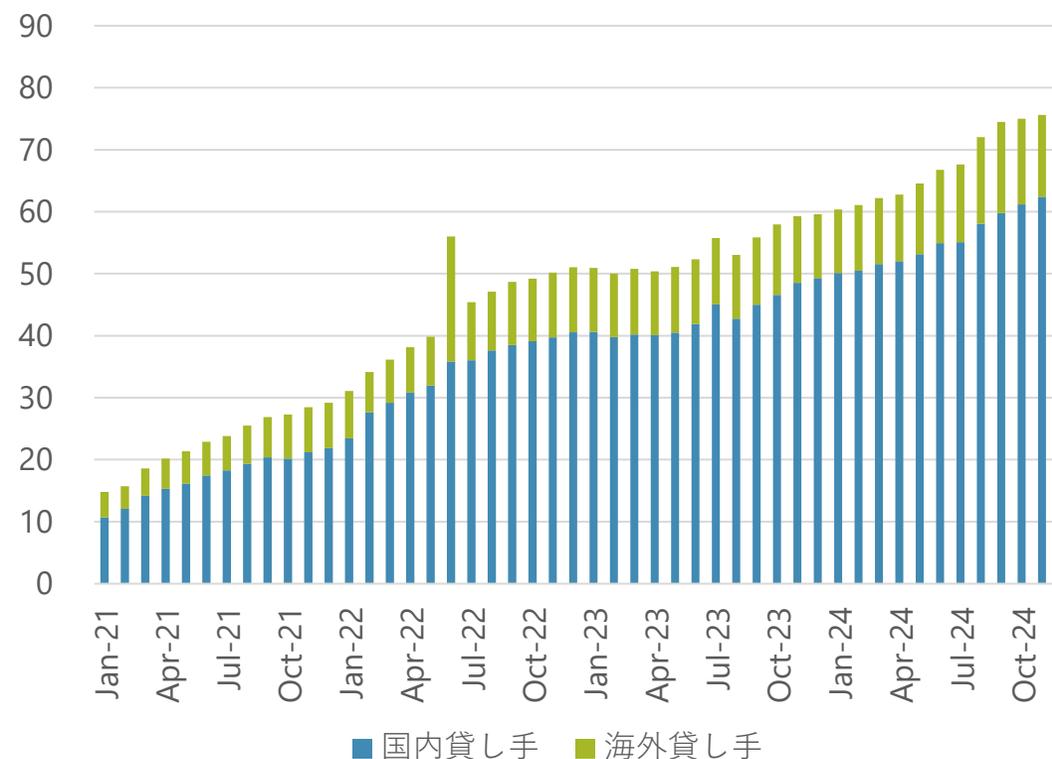
フィンテック貸出 (2024年)

	借入口座数		借入残高	
貸出総額	22,321,024	100.00%	77,024	100.00%
個人	22,316,619	99.98%	72,484	94.10%
内中小零細企業	5,167,426	23.15%	24,558	31.88%
企業	4,405	0.02%	4,541	5.90%
内中小零細企業	3,832	0.02%	3,687	4.79%
性別				
男性	11,090,956	49.65%	33,255	45.88%
女性	11,246,160	50.35%	39,223	54.12%
年齢別				
19歳未満	178,657	0.80%	324	0.45%
19-34歳	13,320,175	59.69%	37,192	51.25%
34-54歳	8,085,623	36.23%	31,880	43.93%
54歳以上	732,127	3.28%	3,175	4.37%

(出所) OJK, STATISTIK P2P Lending, STATISTIK LPBBTI Desember.

- フィンテック借入口座 **2,232万口座**
- 商業銀行（イスラム銀行除く）預金口座 **5億7,889万口座**（2024年5月）
- フィンテック借入残高/銀行貸出残高比率  
**0.6%（2021年） → 1.1%（2024年）**

フィンテック貸出残高（兆ルピア）



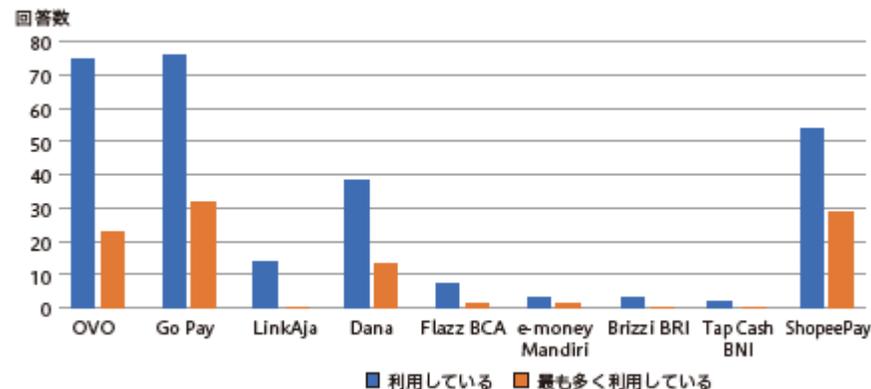
(出所) OJK, STATISTIK P2P Lending, STATISTIK LPBBTI Desember.

## 2.2. QRコード決済の現状ーインドネシアの事例

「インドネシアにおける金融のデジタル化ー電子マネーと中小零細企業ー」より

- ・ 聞き取り調査100件（2022年11月の1時点）
- ・ 首都ジャカルタ（ジャカルタ特別州）、首都圏のプカシ（西ジャワ州）、ボゴール（西ジャワ州）、ジョグジャカルタ（ジョグジャカルタ特別州）の4都市
- ・ 回答者の平均年齢は35.2歳（18歳～62歳）
- ・ 男性52名、女性48名（10代2名、20代33名、30代27名、40代24名、50代13名、60代1名）。
- ・ 事業の所有者本人59件、41件はマネージャーや配偶者などが回答している。
- ・ 最終学歴、小学校以下が6人、中学校が9人、高校・工業高校が56人、短大・大学29人、大学院以上2人。
- ・ 店舗がある場所、伝統的な市場は7件と少数で、スーパーマーケット内9件、住居兼用のショップハウスが39件、露天商が24件、その他が21件
- ・ 業態は飲食業が62件と過半を占め、その他日用雑貨、衣料品など多岐にわたる。

図 3-9 利用している電子マネー



(出所) CORE Indonesia サーベイ結果より筆者作成。

表3-4 主要な電子マネー

電子マネー	所有者	創設年	プラットフォーム
OVO	リップグループ (創設者) → Grab (シンガポールの配車アプリ企業)	2017	
Go Pay	Gojek (現 GOTO)	2014	スーパーアプリ (配車, デリバリー, その他), Tokopedia (EC プラットフォーム)
LinkAja	Telkomsel (国営通信会社), 国営銀行, 国営企業	2019	
Dana	Antfinancial (中国アリバ), Emtel	2018	
Flazz BCA	Bank Central Asia	2009	
Mandiri e-money	Bank Mandiri	2013	Bukalapak (EC プラットフォーム)
Brizzi BRI	Bank Rakyat Indonesia	2012	
Tap Cash BNI	Bank Negara Indonesia	2014	
ShopeePay	Shopee (シンガポール EC プラットフォーム)	2018	Shopee (EC プラットフォーム)

(出所) 各種ウェブサイトから筆者作成。

表3-6 電子マネーを使う理由

もっともよく使う電子マネー	1	2	3	4	5	6
OVO	利用が簡単	多くの人が利用	より安心・安全	取引記録がより正確	プロモーションやキャッシュバック, 割引が多い	クレジットカード・デビットカードより費用が安い
Go Pay	利用が簡単	より安心・安全	多くの人が利用	取引記録がより正確	プロモーションやキャッシュバック, 割引が多い	クレジットカード・デビットカードより費用が安い
Dana	利用が簡単	より安心・安全	多くの人が利用	取引記録がより正確	プロモーションやキャッシュバック, 割引が多い	
ShopeePay	利用が簡単	多くの人が利用	より安心・安全	取引記録がより正確	プロモーションやキャッシュバック, 割引が多い	クレジットカード・デビットカードより費用が安い

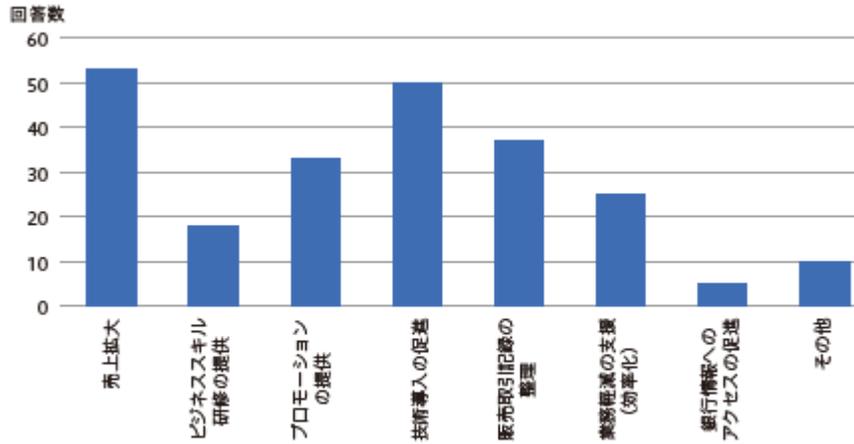
(出所) 濱田「インドネシアにおける金融のデジタル化ー電子マネーと中小零細企業ー」『発展途上国における経済のデジタル化ーアフリカ・東南アジア・ラテンアメリカの事例から考えるー』

[https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn\\_Books/eBook/202401\\_02.html](https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/eBook/202401_02.html)

# 2.2. QRコード決済の現状ーインドネシアの事例

「インドネシアにおける金融のデジタル化ー電子マネーと中小零細企業ー」より

図 3-10 電子マネー決済導入のメリット (複数回答)



(出所) 図3-9 に同じ。

図 3-11 銀行の利用目的 (複数回答)

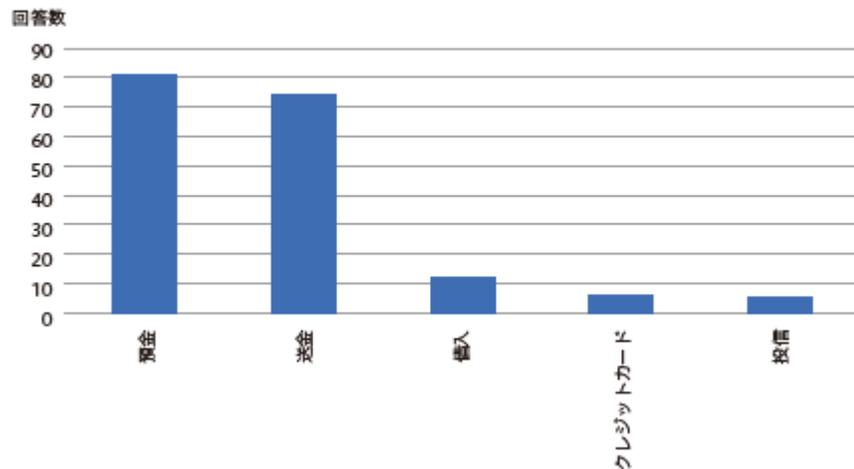
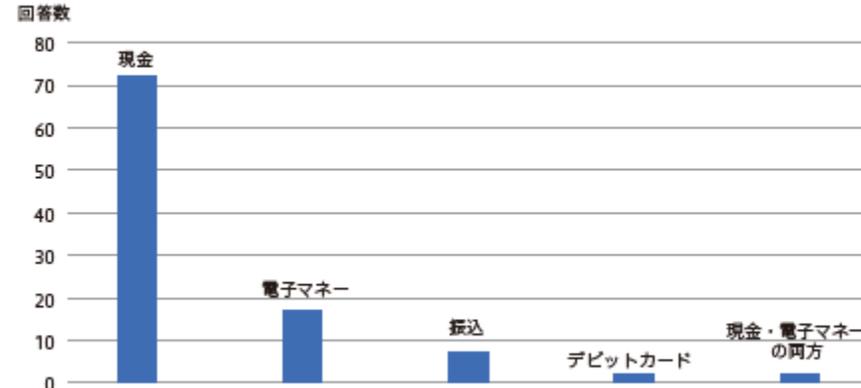
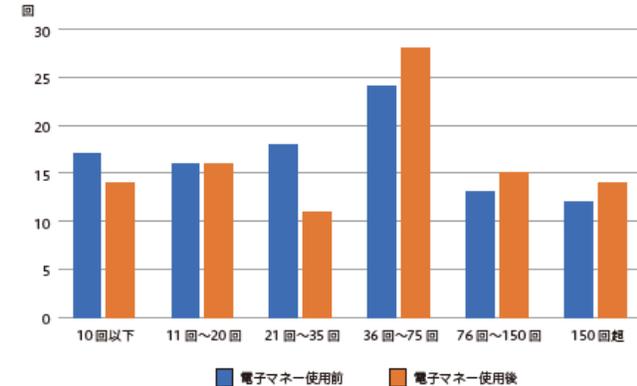


図 3-12 最もよく使う決済手段



(出所) 図3-9 に同じ。

図 3-13 1日の取引回数の変化



(出所) 図3-9 に同じ。

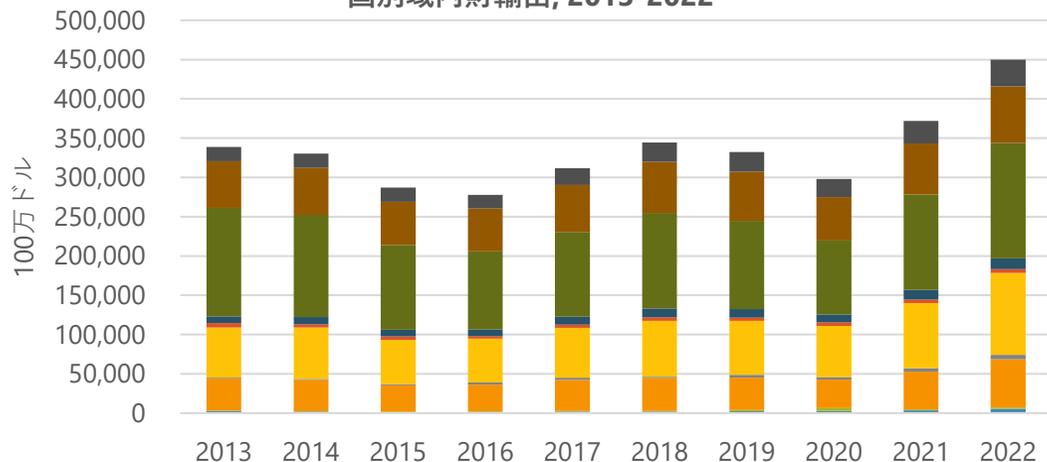
(出所) 濱田「インドネシアにおける金融のデジタル化ー電子マネーと中小零細企業ー」『発展途上国における経済のデジタル化ーアフリカ・東南アジア・ラテンアメリカの事例から考えるー』

# 3. デジタル化によって進む金融統合

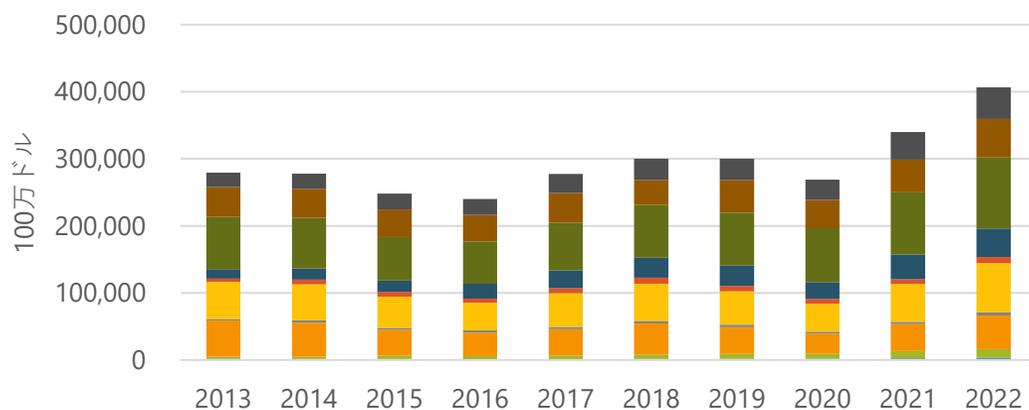
- **ASEAN各国の経済成長**
- **域内経済活動の活発化**
- **域内資本移動の拡大**
- **自国通貨建て取引の需要拡大（ドル離れ）**
- **インターネット技術の進展による金融のデジタル化の進展**
- **ASEANの枠組みによるデジタル化・金融統合の促進**
  - 2016年、ASEAN決済コネクティビティ（2国間提携の進展）
  - 2019年 ASEAN 決済政策枠組み
  - 2022年、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピンによる地域決済接続（RPC）合意、2023年ベトナムも参加。
  - 2023年、ASEAN Leaders Declaration on Advancing Regional Payment Connectivity and Promoting Local Currency Transaction
  - 2023年、地域デジタル経済加速に向けたASEAN DEFA（Digital Economy Framework Agreement）

# 3.1. ASEAN域内資本移動の拡大 — 域内貿易の増加

国別域内財輸出, 2013-2022

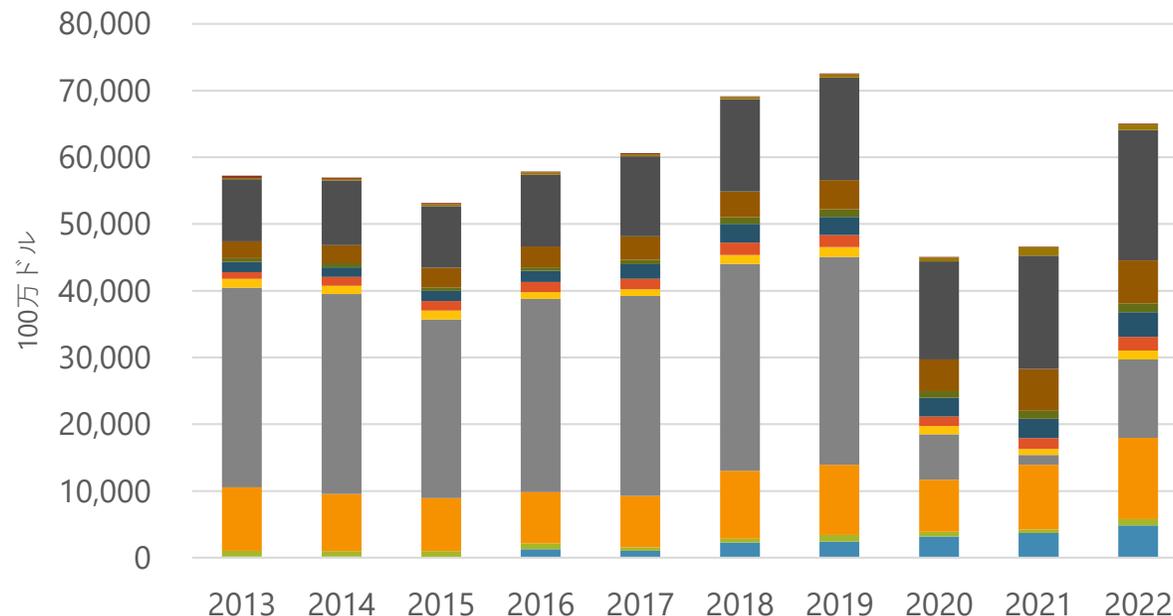


国別域内財輸入, 2013-2022



- Brunei Darussalam
- Cambodia
- Indonesia
- Lao PDR
- Malaysia
- Myanmar
- Philippines
- Singapore
- Thailand
- Viet Nam

国別域内サービス輸出, 2013-2022

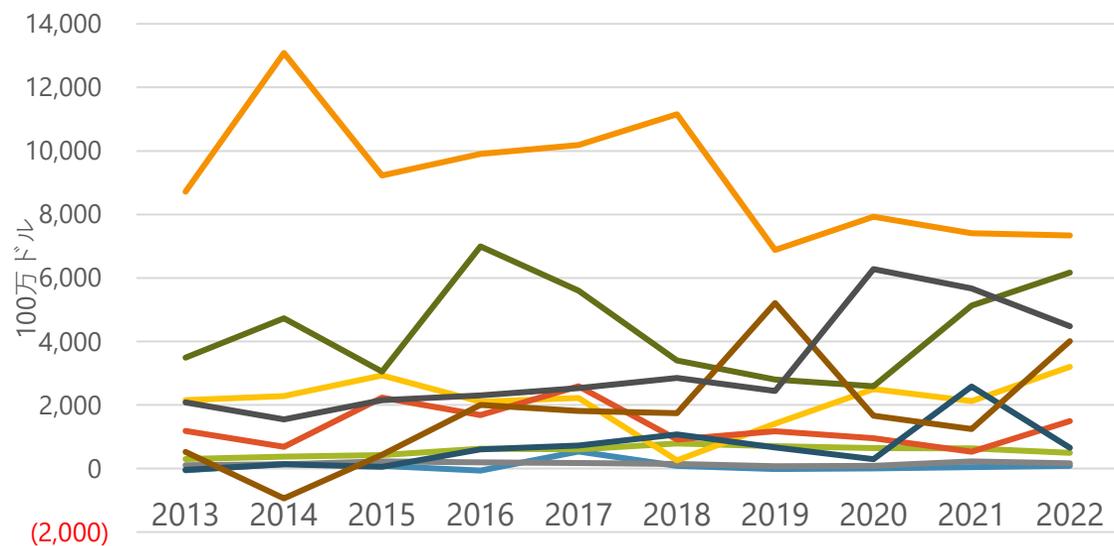


- 製造サービス
- 維持修理
- 輸送
- 旅行
- 建設
- 保険/年金
- 金融
- 知的財産
- 通信、コンピューター、情報
- その他のビジネス

(出所) ASEAN Statistical Yearbook 2023.

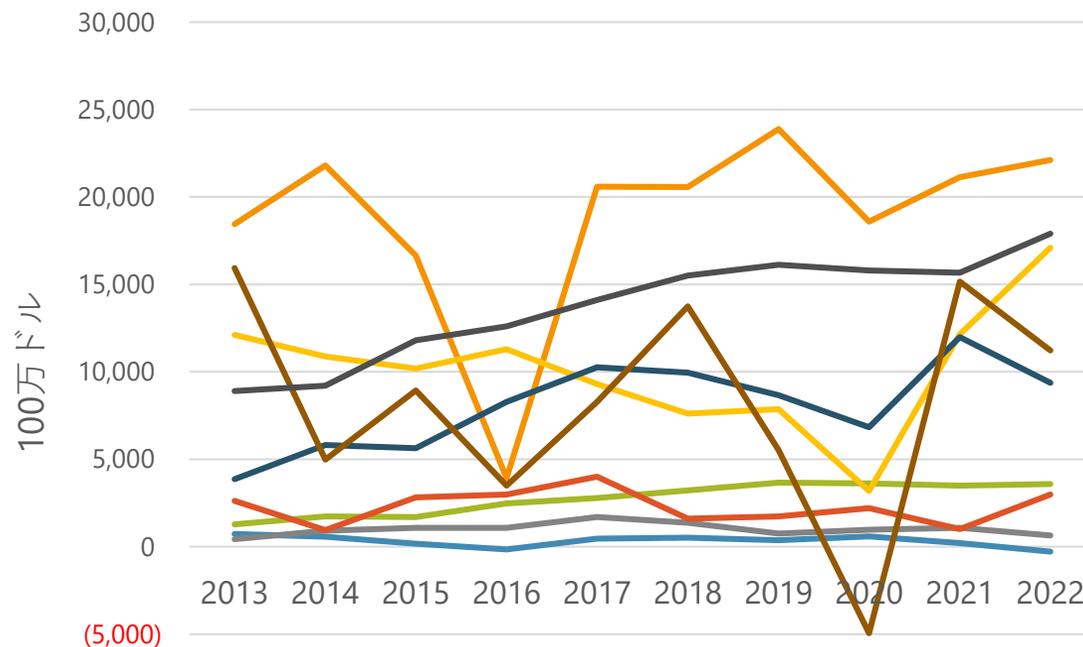
# 3.1. ASEAN域内資本移動の拡大 – 域内直接投資の増加

国別域内直接投資, 2013-2022



- Brunei Darussalam
- Cambodia
- Indonesia
- Lao PDR
- Malaysia
- Myanmar
- Philippines
- Singapore
- Thailand
- Viet Nam

国別直接投資, 2013-2022



- Brunei Darussalam
- Cambodia
- Indonesia
- Lao PDR
- Malaysia
- Myanmar
- Philippines
- Thailand
- Viet Nam

(出所) ASEAN Statistical Yearbook 2023.

# 3.2. 即時決済システムの導入と統一QRコードの導入

## ーデジタル化によって進む金融統合ー

### ASEAN・G20

- 2015年 ASEAN 経済共同体（AEC）ブループリント 2025
- 2016年 Strategic Action Plans (SAPs) for ASEAN Financial Integration 2016-2025
- 2016年 Master Plan on ASEAN Connectivity 2025
  
- 2019年 ASEAN Payments Policy Framework
  
- 2020年 G20 roadmap to enhance cross-border payments
  
- 2022年 Regional Payment Connectivity (RPC)
- 2023年 ASEAN Leaders Declaration on Advancing Regional Payment Connectivity and Promoting Local Currency Transaction
- 2023年 Digital Economy Framework Agreement (DEFA)

### 統一（標準）QRコード

- 2017年 タイ THAI QR
- 2018年 シンガポール SGQR
  
- 2019年 インドネシア QRIS
- 2019年 マレーシア DuitNow QR
- 2019年 フィリピン QRPh
- 2020年 ラオス Lao QR
- 2021年 ベトナム VietQR
- 2022年 カンボジア KHQR
  
- 2025年 ミャンマー MMQR

### FPS : Fast Payment System

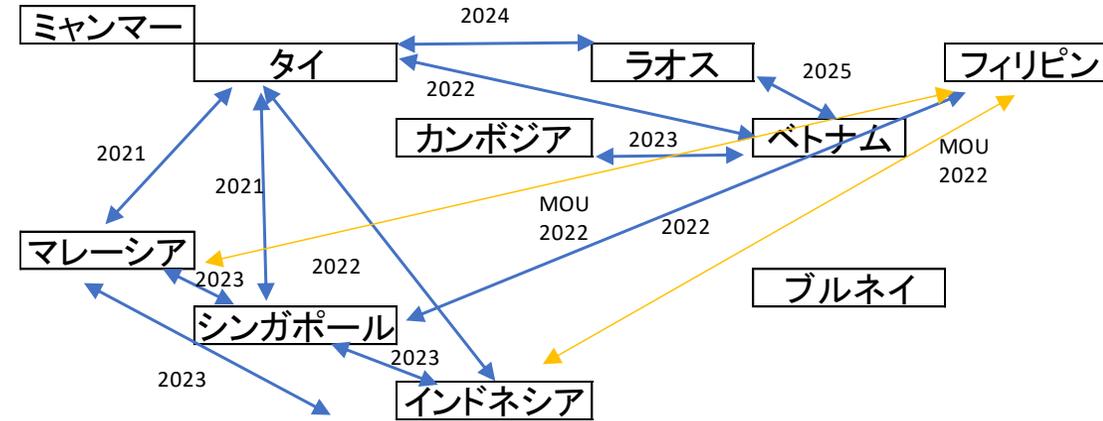
- 2016年 タイ PromptPay
- 2016年 ベトナム NAPAS Quick Money Transfer Service
- 2016年 カンボジア FAST
- 2017年 シンガポール PayNow
- 2018年 マレーシア DuitNow
- 2018年 フィリピン Instapay
  
- 2021年 インドネシア BI-Fast
  
- **世界で24時間365日利用可能な即時送金システム（Fast Payment System）の導入の広がり**
- **ASEANでは政府主導でFPSが導入**

# 3.3. 越境QRコード接続

## ・ 中央銀行主導で統一QRコードの導入

	統一QR	導入年	推進機関
タイ	Thai QR	2017	Bank of Thailand (中銀)
シンガポール	SGQR	2018	MAS(中銀)
インドネシア	QRIS	2019	Bank Indonesia (中銀)
マレーシア	DuitNow	2019	Bank Negara Malaysia (中銀)
フィリピン	QR PH	2019	B PS (中銀)
ベトナム	VietQR	2021	NAPAS (中銀が49%出資)
カンボジア	KHQR	2022	National Bank of Cambodia (中銀)
ラオス	LAOQR	2023	Bank of the Lao P.D.R (中銀)
日本	JPQR	2020	総務省と経産省 (越境決済では金融庁)

## ・ 相互接続の拡大



(出所) 各国中銀銀行、新聞報道より報告者作成.

## ・ 日本も2025年にASEAN諸国と相互運用をめざす\*

- ・ 2022年12月に経済産業省はJPQRとインドネシアのQRISとの相互運用促進のための協力覚書をインドネシア銀行と締結.
- ・ 2023年12月にカンボジア国立銀行とも協力覚書を締結.

\*2024年3月14日付日本経済新聞「QR決済、日本とASEANで支払い可能 25年度に相互利用」

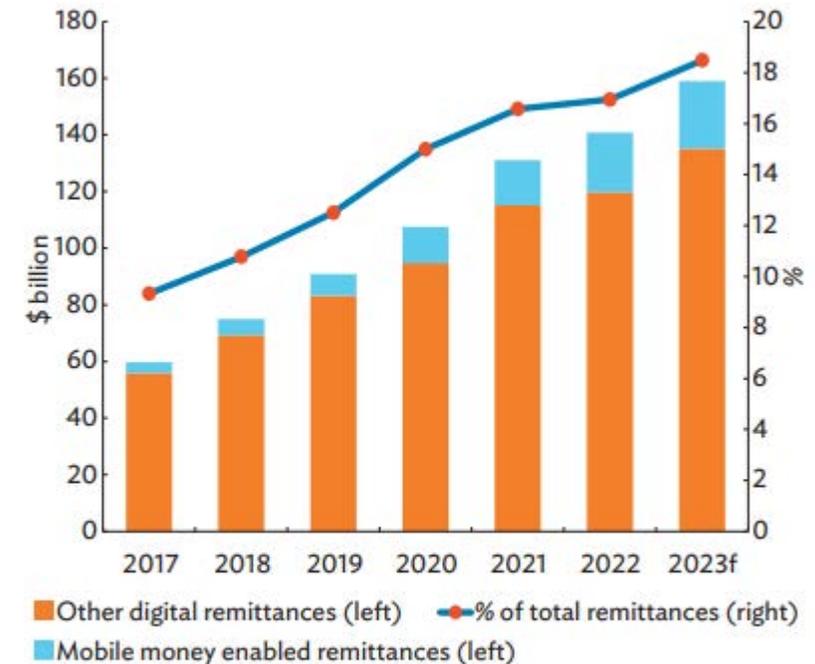
### 3.3. 越境QRコード接続

- ・ QRコード決済推進の目的
- ・ 金融包摂、零細中小企業対策
- ・ 越境決済
  - ・ 自国通貨の利用促進
  - ・ 観光業インバウンド収入

Table A8: Remittance Inflows Share—Asia and the Pacific, 2021 (% of total remittance inflows)

Reporter	Partner				
	Asia and the Pacific	Middle East	EU+UK	US	ROW
<b>Southeast Asia</b>	<b>31.0</b>	<b>19.5</b>	<b>11.1</b>	<b>30.1</b>	<b>8.3</b>
Brunei Darussalam	—	—	—	—	—
Cambodia	69.5	0.0	8.9	18.5	3.1
Indonesia	41.3	51.3	3.9	2.5	1.0
Lao People's Democratic Republic	76.0	—	5.1	17.3	1.6
Malaysia	88.8	0.1	4.7	4.2	2.3
Philippines	16.5	27.5	9.0	35.0	12.1
Singapore	—	—	—	—	—
Timor-Leste	41.4	2.1	25.6	24.1	6.8
Thailand	85.2	—	14.5	—	0.3
Viet Nam	35.7	0.0	13.6	43.7	7.0
Hong Kong, China	39.0	0.0	12.7	22.9	25.3
Japan	23.0	0.3	16.3	44.0	16.4
Korea, Republic of	37.1	0.2	5.7	48.3	8.7
Mongolia	39.2	1.7	35.4	—	23.7
Taipei, China	—	—	—	—	—

Figure 5.12: Share of Digital Remittances in Total Remittances

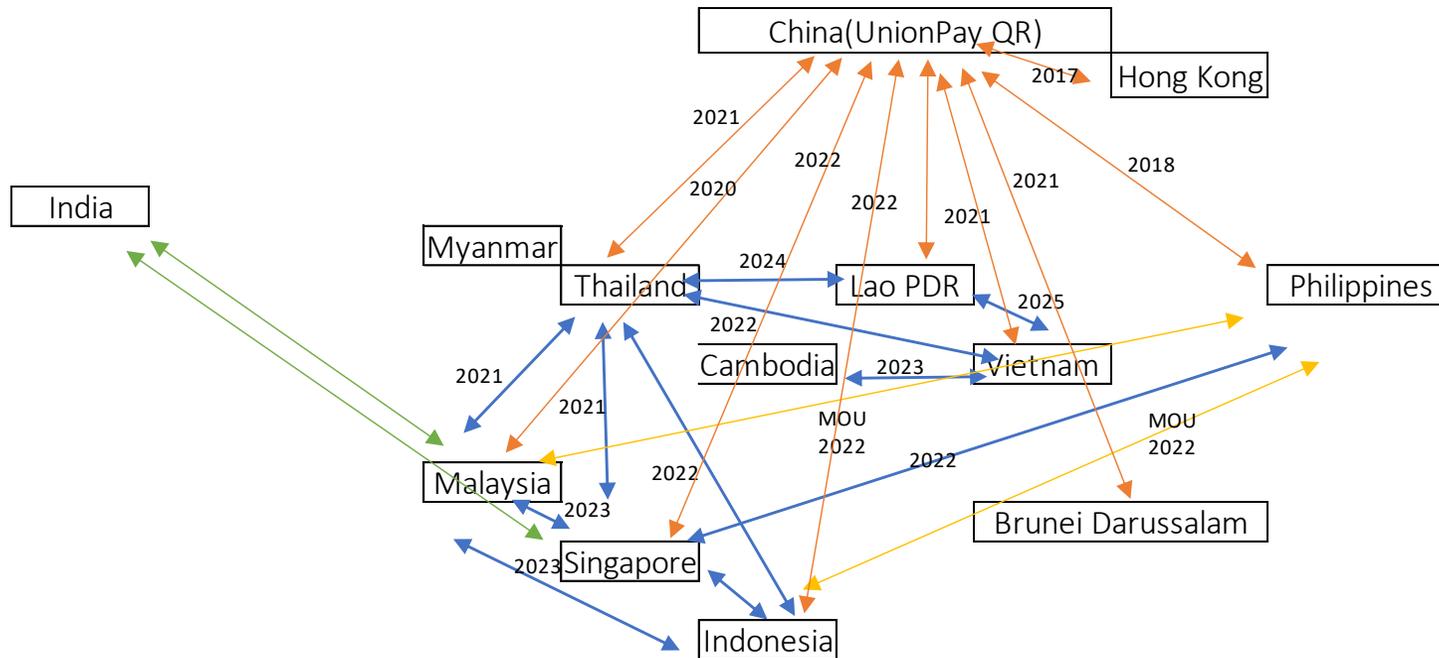


Notes: Other digital remittances refer to the electronic transfer of money from one person or entity to another, typically across international borders. The transfers are made through online platforms, mobile apps, and other digital channels that allow individuals to send and receive money quickly and securely.

Sources: Global System for Mobile Communications Association (2023a), and Statista Research Department (2023a).

(出所) Asian Economic Integration Report 2024, P117. /CC BY 3.0 IGO

### 3.3. 越境QRコード接続 —ASEAN域外との接続—



(出所) AMRO, Policy Position Paper (PPP/23-01) Expanding Local Currency Transactions in ASEAN+3 Cross-Border Paymentsおよび各国中央銀行、新聞報道より報告者作成。

### Project Nexus

第1フェーズ（2021年）  
国際決済銀行（BIS）は各国・地域の即時決済システム(IPS：Instant Payment System)の相互接続の標準化を目指す。

第2フェーズ（2022年）  
BIS Innovation Hubシンガポール センター、欧州のInstant Payment Settlement(TIPS)、マレーシアのReal-time Retail Payments Platform (RPP)、シンガポールのFast and Secure Transfers (FAST)の接続テストを実施。

第3フェーズ（2024年）  
BIS Innovation Hub、マレーシアのReal-time Retail Payments Platform (RPP) (RPP) シンガポールのFast And Secure Transfers (FAST) 間の試験相互接続。インドネシアは特別オブザーバー。

第4フェーズ  
シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、インドの即時決済システムの相互接続に取り組む第4フェーズに入る。

# まとめ

- **銀行が主体のASEANの金融部門**
  - 金融仲介機能の発展はそれぞれ異なる。
- **銀行システムを迂回するように電子マネーが拡大、QRコードの利用拡大。**
  - 銀行口座保有していなかった層の金融アクセス拡大。
    - →課題→違法、詐欺などの問題、個人情報の悪用、規制の遅れ、金融リテラシーの低さ。
- **ASEANのアジェンダ、金融統合とデジタル化**
  - デジタル化が金融統合を促進。
  - 2016年以降のQRコードの拡大、FPS整備が同時に行われる。
  - 各国独自のイニシアチブ+ASEANのロードマップ。
  - ただし、制度や仕組みが導入されても、実際に使われるまでには時間がかかる（インドネシアの事例）
  - 二国間相互運用で1カ国では使えても、片方の国では使えない、など実際の運用の課題。
- **QRコードの日本との相互運用の課題**
  - 日本では準備が整っていない。
  - 日本の統一規格JPQRがほとんど普及していない。
  - 相互運用の実現必要な国際スイッチャーの準備が整っていない
- **ASEANにつながろうとしているのは、日本だけではない。**
  - QR先進国の中国。統一QRコードはないが、UnionPay QRなどが早い段階からASEAN各国の民間銀行・企業と接続。
  - インドUPIのグローバル展開。
  - Project Nexus – FPSが国内で利用可能な70以上の国との接続。